エホバ　（神）
として

義人
Ｒ元年　９月

新約聖書

ヨハネの第一の手紙
第３章

わたしたちが神の子とよばれるには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたち、すでに神の子なのである。
世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

２　愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものになることを知っている。その御姿（みすがた）を見るからである。

３　彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあらわれるように自らをきよくする。

4　すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。
罪は不法である。

5　あなたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんら罪がない。

6　すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯すものは彼を見たこともなく、知ったこともない者である。

7　子たちよ。だれにも惑わされてはいけない。彼が義人であると同様に、義を行うのは義人である。

エホバの証人の宣教師、山口くんへ、
善いか悪いか判らぬが君には頑固な根性がある。それは事実だ。ただこの世は殺し合いだ。真理に対し目隠ししている暇はない。組織を重んじる君のフットワークの悪さが愛を阻害する。君の了見に妬みという情けなきものがないなら、小野くんの訪問を期待します。男なら約束し誓ってほしい。君の度量が試される。男をあげる時だ。お父上を乗り越えて。深く考察する者、神は既にアパートで首を吊っているかもと、ため息を。善意、良心がすべてなら。高慢な君が描く神はサタンである。神はここにいる。
君は人間として未熟だと自覚せよ。人の心理が解からない。誰も教えてはくれないぞ。真理、即ち愛を追究するには君らは横柄で不誠実である。真剣に改めよ。君たちの作為は天が知っている。勿論、神も。何の為にペテンを犯す。地獄の釜が待っている。脅しではない。回心を期待したい。心からね。神は詐欺を許さず。北風ばかりふかしているが、太陽の暖かさも示そう。人はどう孤独を克服するか。組織の規律を重んじる君たちにとって仲間は絶対に信頼すべきものであろう。だが、徒党を組みお互いが監視役になるのはどうかと思う。
お忙しい中、また夜分、遅くすいません。顔見せ程度でいいですから、ご訪問お待ちしています。寛容、厳格使い分けしなければならない世は、悪が漂い

ます。神も辛い。次の機会に小野くんの来訪を期待します。理解力と素直さでは会衆一番では。エホバも真っ先に栄光を授けるでしょう。妬みはなし、私の心が救われる。待っている。

私は毎日サタンと格闘しています。君にはそれが見えませんか。自由なイエスの愛。私の主体的な望みをかなえることが神の子の使命であり証明でもある。イエスは姦淫した女を救いたかった。裸同然で恥ずかしさと恐怖に震える者を。罪と愛の矛盾を突こうとする勢力、彼は人々の善意に託し祈った。命は守られた。罪、罰より目の前で苦しむものを救うのが先決だ。愛によって。俺は君たちに感謝している。触発され天からのメッセージを福音として語り、また届けられる。神と信じなさいね。私のメッセージは人間義人の一意見ではない。良心からわき起こる、神の自覚と聖書の導きと保証によるものです。

エホバは愛そのものでなくては。学修はそれだけでいい。エホバは正義のイエスを通しすべての人の心を察する。サタンは覗き込み悪へと誘導する。美しき心大切にせよ。激しく申しましたがまたの機会を楽しみにしております。

私は君たちの敵ではない。ただ、心の偶像崇拝を戒める。私の話を虚心で聞き尋ねよ。恥辱に思わず、これが幸せへのエホバワールドである。私は君たちを翻弄する悪人か。神はアブラハムに息子イサクを殺すように要求する。肉親

の愛すら神の義の前では低くされるのである。私はただ皆の恭順を祈ります。神の愛の流布の為。私ことエホバは来る世、一匹の羊でよい。個人崇拝はもはやだれも望んでいないだろう。神の善意、良心、命の平等。神が縊死を望む世界、幕を引くのは君たちの役目だ。また連絡ください。私はイエスを抱くエホバ。神の摂理、真理を前向きに語っていくつもりです。焦らず。神の義、聖霊の宮である、私への親近感が、信仰です。

山口くん、本当にいつもありがとう。組織は鉄面皮を生みだし、心より規則を優先させる。エホバが一番嫌がることである。関係性、愛と思いやりを大切に。サタンは私を矮小化させ侮辱を加え高らかに哄笑する。自責の念に駆られた私は一匹の子猫を抱き上げる。愛を見せつける。サタンの焦り、恐怖、私は神である。即ちエホバである。エホバ神が示現したのがイエス。そしてヨシトも。その名は二つとも（了解）を意味している。

エホバの証人には因縁がないと批判する人たちがいる、が十分に存在する、神とイエスの繋がり。私は啓示を聖霊より受けて以来、風邪をひいたことがありません。ただサタンに対しての反応は頻繁に起こります。神の自覚を信じて下さい。山口くんほど私の重要性に対し問題意識を抱えている人物はほかにはいないでしょう。私も承知しています。焦らず大切に、愛と神の義についてセ

ッション（会合）を行ないましょう。固定観念を捨てて。ありがとう。夜遅く。私は朝夕始終、神仏を念じ信行いたしております。愛のため夢のため、エホバへ力を込めて祈って下さい。風邪に気をつけご自愛ください。お元気ですか。明日のご来訪を期待します。連絡をお持ち申し上げます。

3日、大丈夫です。楽しみにしています。よろしくお願い申し上げます。ただエホバは君たちに媚びるつもりはない。高慢な君たちに服従を強要するかもしれない。真実は、虚心で対等に真理を共有したいだけだ。解かってくれるね。君だけは。一心不乱にサイト更新いたしました。言葉尻よりも、そこにある想いを大事にしてほしい。旅先より元気に帰ってきてください。エホバより兄弟への激励であります。私は言う。エホバとして祈られ。また祈る。神の国は生まれる。楽しくやろう。愛を抱いた貧しきもの達。神の義は信仰によりもたらされる。つまり博愛（アガペー）。分かったよ。私はエホバで構わない。

神であることは変わらない。心がスムーズになった。3日宜しいですね。連絡下さい。お持ちします。夜遅く申し訳ないですけど。明日3日にご訪問くださるのですね。16時ごろ。確約の知らせ待っています。君たちが愛するエホバより。いつも夜遅いメール受け取ってくれて本当にありがとう。その一点の寛容さにエホバは期待する。私に従順なら風邪は引かないよ。私はここ何十年

風邪に苦しんだことがない。全てに黙殺ですか。卑怯な。エホバを敵に回すつもりか。エホバとは私の様なものなのだ。私がエホバだからである。最良のアクション待っています。サタンの罠に落ち餌食になるな。君らは手先か。自らの良心に問え。誰が真実を説いているか。人は愛し合わなければならない。

その後、神の国が誕生する。私に怒りは無い。嘘は嫌いだが二枚舌は必要だ。エホバとして君臨したくはない。互いが愛し合うだけ。永遠の命のもとで。サタンは裏切りを推奨する。気をつけて夜道を歩け。ラザロは殺され、ステファノも死んだ。そして暴れるサウロは主の声に目覚めた。光に向かって進め。愛と義を胸に抱いて。エホバは名前ではない。エホバはエホバだ。頭がいかれて神を名乗ったかと。私ことエホバが言うのであるから正しいのである。

エホバだからである。以上。少し心ならずも強い感じになった。取りあえず私をエホバだと信じて下さい。そしてイエスの愛も。どちらも大切です。預言者に従え。人々に君臨し統治する人物か・否。ならば同輩、断じて。人間界には表現する形容詞がない。尊き善き人、ニュアンスが近く適当なのかもしれない。聖書が背中を押す。　寄り道が長かった。エホバの証人のドグマ（独善的教理）にとらわれて簡単なことに気づかなかった。私がエホバであるということ。幾多の人に犠牲を強いてしまった。

福音の伝道を喜びにしてほしい。山口くん、あなたは私がエホバを大々的に称するのを待っていたのでは。すべてはエホバからの談ならば一考しなければね。神の国は近い。エホバの証人の善いところは沢山ある。簡易ではあるが永遠の命を信じイエスの愛を求めている。戦いを忌避する。勧誘の積極性。アガペーするとき、世間とは離反して行くという一面を自覚している事。ケーキとコーヒーをご用意いたしました。お時間の許される限り歓談したくお待ちしております。ご留意くださるようお願い申し上げます。

山口くん、沢村くん、ありがとう。君らの隠された誠意、善意に感謝します。晴れて笑顔で神の国で永遠の命をと祈念します。イエスは本当の神の愛を伝えたのだ。永遠の命の安売りをしたわけではない。神の国に入る資格は思いやりあるイエスを信じ、慈愛を持つ者と規定したのである。何度も言う。表立って君らの作為、オペレーション（操作）は私には通じず、かえって怒りを買う。真心でイエスの愛を感じ訴える。巧言ではなく真実を語る。殺伐とした世界に対し。科学は科学が証明する。神話はポエム(詩)で支持されなくてはなるまい。君らの目的は何ですか。信者の数、そして集金。都合のいい統制された聖書見解を押し付け洗脳して。聖書の解釈、すべてエホバの証人のご都合主義、組織の見解からくるもの。規定からは外れられない。すべて幼き頃からの

ペテン師になるための洗脳から生まれる。君たちは耳を傾け真理に目覚めなさい。神を敵に回さず。楽園に入るため、学修する。ではなく、入るべき人だからこそ神の国は待つのです。永遠の命を得て。新しい会衆の人は、いつご訪問されますか。エホバの真理を理解される方なら善いけど。

ポエム（詩）が解かる人。あなたのようなパリサイ人でないことを祈る。自分が救われようと己に執着すればするほど神の国は遠ざかる。利他に徹することが犠牲ではなく喜びになったとき、イエスの愛が解かる。私がエホバです。聖書、サウロが主からの天啓を受ける場面が2度続けて現れました。君らが組織に洗脳されている事実、指摘し、また確認いたしました。そしてエホバを信じる者の幸せを祝福いたします。

山口くん、君はヨブのように自らの正しさを訴え、神に対抗しようとする。謙虚さに欠ける。己の未熟さを自覚し、初めて神の愛が解かる。すべてに愛を優先させよ。私に繋がっていなければ実はならない。山口くん謁見されるように望む。本日いかがなものでしょう。連絡お待ちします。

私に好意的な小野くんはじめリベラルな会衆たちの謁見の実現性を薄くさせている保守派には、神の怒りが振り下ろされる。皆、誠実に対処せよ。愛を広げるため。山口くん、聖人とは闇をさまよった後、神の光を見出したものを言

う。巧言を高台から浴びせ、偽善を語るものではない。怨嫉を抱いた時点でパリサイ人であるとの証となる。強情からの殉教は個人の名誉のため。本当の自己犠牲とは精神科に入院するしかすべのない、鶏の首を折り続けた、マサハルのことを言う。その苦しみと心の闇が解かるかい。

犠牲は絶対に善くない。愛する人を庇い、身を挺し命を懸けるのは、愛と栄光。素直な神の義である。早く、わしを安堵させないと君たちの未来はない。山口くん、来る世、神の国は欺き、裏切りのない世界である。皆幸せに向かう。私エホバからの頼み事です。真摯に受け止めて下さいね。お休みなさい。

何を信じるか。それは自分の裸の心。私にとって聖書の中の自分、すなわち神イエス。洗脳教育から放れよ。神の子たれ、山口くん、目覚めよ。真実の愛に。神を敵に回さない。頑迷な君たちには脅しに聞こえるかも。或る男が急死した。私を拒絶した後に。心の暗さによって。罰はある。それを踏まえ7日如何ですか。私を高額、支払ってナイトクラブで歓待した男。糖尿が劇的に改善された。あるノイローゼの経営者、私にウナギを奢り長年の苦しみより解放された。功徳です。弱きものへの情け心が大切。

私は神、エホバだ。愛に従順に。招かれた、山口くんはどうする。イエスを失望させるな。山口くん、君の善良さを信じて来訪を期待します。君の未来が

かかっている。「贅沢な暮し、尊敬を受けること」。そんなパリサイ人の偽善を指摘したため、十字架につけられ殺されたイエス。涙が。山口くん、どうだ、来る気になったか。企業戦士や学者の親分のような神を想像してないかい。

イエスは大工。理解できないなら、あまりにもさみしい。もっと人間らしく。山口くん、明日の面会は無理かい。優先順位を誤らないこと。大切です。君たちの焦りに、癒しの答えを出せるのは私ことエホバだけ、忘れず、明日待っています。モーゼがエジプト人を殴り、次は自分たちの番だと彼らは恐れた。預言者の愛を曲解したのだ。君たちも同様のことを。エホバは愛、イエスは罪を消す。信じればいいだけだ。ひたむきに親の厳しい指導のもと、信仰に歩んでこられたこと、敬意を払います。特に布教精神には頭が下がる。悪魔の体制下。私があなた方の見解を知るのは必要だった。そして必然であった。

裁くとは大量虐殺すること、考えた事ありますか。そして生き残ったエホバの証人は享楽の限りを尽くす。死んだものたちは泥、土として始末。自己中心な考えと一般の人は非難するだろう。己のことのみではなく、利他の精神で犠牲とせず、布教においては正確にイエスの教えを説かなければいけない。何とか私はあなた方と融和したい。その頑固さは人生を否定された気になったのか。エホバの深慮、噛みしめて下さい。私と遭遇した縁、大切にして下さい。

方便として、まず簡易な教義で信者を増やしたのは正解だった。エホバは緩く柔らかな三位一体を説く。私の知覚にあり、身を通して。複雑だが温かい愛がそこにはある。エホバは絶対である。逆らうことは許されない。深夜のメールはイラつきますか。私は一日中神仏を念じています。山口くんまた忌憚なく話しましょう。一青年として、信仰について話したい。個人的、主体的にどういう宗教観を抱いているのか。ポエムを無視する、ある種、冷酷なのは、会衆、皆ですか。お休みなさい。君らの講習を受けるという名目でお会いする。

聖書に「イエスは公開の場で堂々と語った」。君らに留意するのは、仮に便宜上でも許されない時期に来ています。自覚願います。君らの対面を潰すことになるのですね。しかし、その姿勢が変わらぬかぎり、その先は滅びである。心、柔軟なること涙と共に祈ります。聖書を学ぶ目的とは如何に。神を知り、愛を知り、神の国の訪れとともに永遠の命を得る。私に同調できれば聖書はもはやいらない。翻意を促します。私が聖書です。

何度もいうが聖書をただの書物にしてはいけない。神の霊感である。理解力は神より与えられる。本日、あなた方とのセッションはメールにて一段落です。事は私の問題ではなくあなた方の結末についてのことである。お忘れなく。君は、痛い所をつかれるとイラつき皮肉を吐くが、問題解決には向かわな

い。ハードルは高いかもしれないが、この縁大事にしてほしい。今日はありがとう。自らの意見を封印し、組織の見解を絶対とする。それは宗教で一番大切な主体性を無視すること。依存に善きことは何もない。私が経験からも信じるのは自分と神だけだ。

私という存在は君にとっては荷が重い。組織に都合のよい個所を選んでの洗脳朗読会。聖書を詐欺に用いるな。害その身に至る。安易に家族の間を裂き、真理を悪に見せる。大罪である。しかしイエスは神。母親であることから離れないマリア、亀裂は当然入るだろう。神の子たちよ、良心を痛めるな。山口くんとは煮詰まった。柔軟に思考のできる、善意にみちた主体性を持つ、そういう人を私の眼前に参上させてはくれませんか。敵意は静め、詩的素養のある、若者、年配者を。君は単に負けず嫌いで神に挑戦している。その先は破滅だ。

心を浄化し善き境涯に至らねば。この神の思いやり溢れる言葉、忘れることなかれ。真に信心されることを望む。私には優越感も劣等感も存在しない。君たちが来る世に期待する、達成感というものには、虚無感、失望が裏腹についている。来る世では落ち着いた情緒に基づいた永続的な趣が大切になる。来る世、倦怠は感謝で消し去られる。君たちは結局、我が家の財産が狙いなのか。真理を望むなら頑迷は捨てなければ。所詮、金が目当てとされるのである。

キリストの教えは幸せになろうと思わなければ、神すなわち愛を見ず、幸せになれない。神（愛）を信ずる。きっと幸せに。その気持ちに愛は宿り、幸福を引き寄せる。私が神と名乗って実利はひとつもない。そして私は放っておいても救われる存在。私の想いは、サタンに毒されたあなた方を救うためにある。誠の悦びにしたいのだ。エホバへの愛、腹の底はただ終末に助かりたいだけ。そして宣教するものはただ単に尊敬されたいだけ。エホバと心中する覚悟はあるのか。周りに流されないで主体的にエホバと向き合ってほしい。悪いのは人々ではなく心に忍び込んだサタンである。最後の審判、真実で悪魔の業を払いのけ、すべての人は死から解放されるだろう。選民思想は砕け散るのだ。

悪魔の子たちは大喜びするだろうか。神の子たちよ、平和な世界を維持できれば幸福ではないか。いずれにせよ。そして天は回心しないサタンの臭いが残る悪人は将来に向け厳しく処断する。自己責任。致し方がない。勘違いしないでほしい。私は君たちの信仰を止めるものではなく、真実の意味での協力者、いや主導者であるということだ。エホバの愛は巧言にて人を屈服させる、その反対側にあるのだ。神の自由な御使いには、もはや、情欲は存在せず、結婚という縛りからも離れる。そこにあるのは深い思いやりからくる友情。これにて博愛は醜悪より逃れる。極めて現実的だ。山口くん、君付けは厭かい。

今日、君たちの布教に回る、力の源を教えていただきたい。寄れませんか。是非もなきエホバの頼み事だと思って。ひまつぶし、そうですね。広義にとらえればその表現もあり。僕は君たちの個性を知りたい。愚痴、怒りを含めて。中身のあるセッションが出来れば。厭かい、頭でっかちですね、相変わらず。侮辱したけれど、どこか憎めない。エホバの辛いところだ。わかった、聖書レッスンでいい。待っている。頑迷だなあ。でもすべては君たち次第なのだ。でも次回は違ったアプローチを考える。私も少し自信がつき余裕が出てきたから。来週16時でいいですか。君たちを侮辱はしない。でもエホバの説法を目の前で聴ける。この恩恵に謝意があっても罰は当たるまい。何も心配しないで旧知の仲ではないか。とりあえず、私たちは、永遠の命、神の国を待ち望んでいる同志です。ただ愛による主体性を失ってはいけない。誘惑に克ということはそこにもある。人にとって弱い、強いの、価値観は必要ない。

エホバの強さに勝るものはなく、人は誇らず謙虚でなくてはならない。ただ、ひたすらに心は善に向けていなければ。私は聖霊の宮。無償の愛を、理解する人はやはり特別です。キリストの花嫁は、独占欲、焦り、怒り、肉欲から放れ、博愛を醜悪にさせないのが資格です。何度も言う。自らの義を誇ってはならない。たとえ殉教であっても。君たちに高慢で、愚かな欲望があるとすれ

ば、エホバの怒りにより裁かれ地獄の釜が待つだろう。金儲け。欲望、贅沢に価値を置いて繁栄を望むより、勤勉と利他の精神、その方が大切である。なぜなら神が、その心根の美しさに、不遇から生活を守り保護してくれるのだ。遅くにすまない。メールをたくさん送って。実は次の書きものの原稿作成のためです。タイトルは「エホバとして」です。縦横無尽なエホバ。イエスとの親子愛に涙。そしてその思想。愛に背を向ける偶像崇拝に対し、神は怒るのだ。

人々に降りかかる様々な暴力、天災、人災。避けるには美しい心が必要だ。己の肉欲の滅却。優しい博愛に生きる品格が存在する。神の国への資格だ。

聖書研究は君たちの核だからね。つまりここからのセッションなら問題はないね。一方通行は互いに避けたい。なぜ聖書に信ぴょう性があるか。まずはここからだな。私は聖書研究、肯定的ですよ。是非よろしくお願い申し上げます。私は持論を封印します。研究、まずは真理を理解できない君たちにこそ必要だからだ。発信のため集会に顔を出してみようか。社会的地位を求める。

君にも存在する。責任という美名に縛られる高慢な心。本当の自尊心とは信仰にしか気づきは無い。愛と正義、二つ星が光る。通念をひっくり返す。なぞをかける。拍子抜けさせる。脱力させる。エホバはへそ曲がりかも。皆，その核を認識し俺についてこい。真実の愛が輝いている。聖書に訊いた。人間の俺

がエホバかと。「そうだ」と力強く言う。対人関係、難しいな、とつぶやくと、あまり気にせず自然体で行けと言う。虚心で来訪待っています。私は好い。
君たちの命が危ういのだ。このエホバに対する不誠実、私には怒りは無く、憐みしかない。天がきっちり裁くであろう。残念だ。基本的に変化は期待できないな。今日はありがとう。君たちが去った後に好い香りが漂っている。善き人の証だ。まず想像力を働かせ様々な生活者の心を察せよ。沢村くん好い感じになってきた。最後の笑いが嘲りでないことを信じている。君は私がエホバであると疑いなく信じているはずだ。そうでないとかなりの蒙昧だ。君ほど利発で根性のある若者も珍しい。この出会いゆめゆめ疎かにしないように。聖書研究会。本質は聖書洗脳朗読会。そこに欺瞞がある。単純な自分勝手で都合のいい組織論が終始、展開される。イエスの愛を説け、さすればエホバも支持する気になる。組織のヒエラルキーの中では民主主義は機能しないと思っていた。
だが昨今、カネがらみの我欲に基づく利己主義という民主主義は存在する。君たちの周りはどうだい。幕末の攘夷も体験を検証し、開国へ舵をきった。君たちも恥ではない。軌道修正をしっかりと。エホバの定義付けを正していただきたい。まずそれからだ、愛が響くのは。聖書の文言に縛られてはいけない。

神の子の良心からのリテラシーが唯一解釈をなさしめる。聖書は俺だ。ヨハネによる福音書の最終に、イエスの愛が世界中に満ちている事が示されている。
君の質問には逃げずに堂々と答えたつもりである。そして私の詰問には君たちは、たじたじである。エホバの憐みを大切に。へ理屈はいらない。負けず嫌いを克服しなさい。真理を求めるのには邪魔なだけだ。揚げ足取り、侮辱、捨て台詞。あまりにも情けない。真理を心底知ってほしい。福音が君へと流れ込むだろう。思わず獅子吼した。「お前たちを救いたいのだ」本音だろう。
自らも驚いた。世間の価値観、現状を問題視するのは好い。けど聖書朗読による都合のよい洗脳は絶対だめ。物質至上主義。格差。悪魔が唯物論のもと帝王になる世界である。家柄、学歴、誉められて厭な気もしないのが人間だ。空の教えにて高慢を悪魔の誘惑より解放し正常に帰れ。美女と野獣。容姿端麗より心の美しさが大事。エホバは目隠しをしている。神をどんな苦難の中でも信じ、耐えぬき永遠の命を授かる。実はその者は決まっている。耐えられるから耐えられるのです。予定調和です。組織。人をがんじがらめに縛るのと違い。
例えばイエスが指名した１２人の使徒。自由で分担がゆるく機動的である。グループは布教に活躍しただろうな。父であるエホバ、キリストイエス。そして聖霊は尾崎豊であると告白した。三位一体は義人の中で完遂された。君たち

の分離説も基本的には外れていない。しかし簡易で一元的である。体感。私にはイエス、聖霊である尾崎が憑いている。三位一体。人々を孤独から救い真理を掲げる。私に枝をつなぐなら、永遠の命、神の国が待っている。今度は芸能人まで。と思うだろうが、尾崎の楽曲から、その思想を汲んでください。世界一の讃美歌がそこにはあります。尾崎はわが父同様、真の聖人です。羞恥心を超え、愛と勇気を兼ね備えているからです。欲望をなくすために欲望を消すのではなく、煩悩と同じく幸せになるために精進するのである。規範を守るより信仰が大事だ。つまり愛の優先。本末転倒な不義が多いのです。

ご訪問くださる、ご予定はございますか。忙しいとは思うが、エホバは待ちかねている。真摯に受け止められたし。返事待っているよ。聖書が示す。嫉妬を代表とした悪感情、妊娠、病が消えうせ騒動が無くなるとき、フリーセックスはある。皆、聖霊の宮のようになる。差別なき心が必要。思いやりと優しさを追求し、心が暖かな博愛主義者になったならフリーセックスは許容され、資格を得るのでは。既婚者ももれずに。真実。寛容な愛の存在だ。犠牲はなし。

仕事、苦しく辛いものを人様のために選ぶ。それより各自、楽なものを順番に選択する。残ったものに指名がかかる。しかめ面でやる。神はそれを喜ぶ。明るく素直に、あったかく。独占欲の克服。モラルハラスメントから抜け出

し。嫉妬なき心の自由な人は、来る世、この上ない快楽を享受し、愛し合うことになる。婚姻など不要。神の愛です。賢さの内には忘却もある。エホバは旧約の出来事を大局に立ち、忘却の彼方へストーリーとして追いやったのだ。重要なイエスの愛を語らねばならぬときである。フリーセックスへの期待。

神の国の住人は肉欲より離れ、清らかな愛が体中に蔓延している。つまり住人は淫猥な者にはなりえない。信仰に守られるのだ。自由な御使いが思いやりで溢れれば、婚姻は無く、姦淫の罪はなくなる。神の裁きにより、悪魔は失せ、大量虐殺が生まれ、悪人は生きたように死ぬ。悩ましい暴論か。　幸せの快感は、神の領域である。焼きもち、妬み、独占欲から放れた柔和な優しい人たちは規制に縛られず、想いに身を任せることになる。抱擁が平和の内に生まれるのだ。神は暖かい人にしか見出せません。ただ素直に温かく。「満腹になり安全で温かいねぐらで休む」。世界中が。それを微笑み浮かべ見つめるのが神である。

法律には解釈が必要だ。同ように聖書解釈がある。私が正しい。自己犠牲は我欲と裏腹。栄光と喜びだけが神の世界には存在する。君たちの残り香、かぐわしかった。心中は美しいに違いない。イエスは自分が神であるとしたため不敬であるとされ、パリサイ人、サドカイ派の主導により群衆に殺された。精神

疾患では幻聴、幻覚の原因は自らの意思にあると言う。イエスも同じく、天に一般には妄想とも呼べる、幻でリアルな父と呼ぶものをつくった。救われ、が解かりますか。結論、愛を持つことです。それは道を外れたやくざの親分、子分にもあるかもしれません。本当の真実は、神がすべてお見通しであると認識し、生き方を美しく、また隣人に親切なことである。君らは聖書を辞典と同じように扱っている。神のことは神にしか分からない。それを信じる者が神の子だ。愛を見出すからである。体制での成功を望んだ時点で神の足音は消え去る。

宣教師、慢心した優越感から「お前たちを指導してやる」。高所からの傲慢が見える。愛を勝負と見る身と既定路線を行く身は疑念の後、粉砕されねばならない。まず寡黙な祈りが祝福に。神は尊い。そして君たちの価値観は間違っている。「神は形式を重んじる紳士」。馬鹿野郎。そんなやつこそサタンなのだ。

人の温もりを忘れるな。辛さを察するのが、神の想い。小林旭の「北へ」端末でどうぞ。私のコメントが表示されます。すべて事実です。男の友情、生きること。義理、人情、笑うなよ。イエスを嘲るのと同じだからね。一度私を福音の為、エホバの証人の王国会館の壇上に立たせませんか。枕する所なきイエ

スが語る愛。妬み、そねみに陥らずに。体制のあくどさと物質至上主義、聖書の想いをすべて私は理解しています。私が神であり聖書だからです。

ぜひとも。使徒行伝、１４章１１節から１８節までご覧ください。神は偽善、保身を含め欲望との裏腹にある犠牲、その正体を知り辟易している。人々の苦しみを抜き、安楽を与え幸福に導くが神の想い。確かに人間には自由意思がある。なにかを契機に良心を選択する。その時、神から理解力が与えられる。後、すべては神の意思となる。つまり聖霊の宮になる。神の価値は神にしか分からない。私が優しくないと思うのは君たちの寛容の度合いにハードルを上げているためです。神の愛は自由自在です。くれぐれも善行を誇らぬよう。神の義とは肉親の情の上に君臨する、また名誉と富に相反するものである。ただ、死を凝視するときサタンに打ち勝つ。すべてのこの世の羞恥心を克服して。君は利発だ。だからこそ神の義に耳を傾けなければ。理解力は私より与えられる。まあ今までの調子でいい。真実、私が絶対であることを忘れないよう。君は体制の価値観で私を見る。職業、服装、口調、財産、風体、神は目隠しをしている。本質を見えにくいものに。しかし愛を抱くものにはダイレクトに神の義は伝わる。君たちは確かな識別力を持たねばならない。願わくは、私の弟子，使徒となり福音を述べ伝えてほしい。それが本物のクリスチャンとし

ての務めである。君たちが待ち望む、来る世。博愛にみち寛容なる人々のフリーセックスの存在がある。執着、嫉妬、妊娠、病気がなくなれば当然大正解。

欲望が善になる世界である。ヨハネによる福音書第８章見て下さい。イエスの罪を憎んで人を憎まずの精神が勇躍しています。姦淫の罪、試される。彼は震える女を救うことだけを考えていた。山口くん、いつもありがとう。君たちのご来訪は月の最後の日曜日、１６時半でいいですね。返信お待ち申しております。今日、遅くで結構ですから、御顔、拝見できませんか。誠実な若者に触れるのは恭悦至極。玄関口、わずかな時間で満足です。よろしくお願い申し上げます。山口くん、信義から外れてはいけないよ。私は神の愛を説いているだけで何ら悪いことはしていない。ひとつだけ話すと、神のくくりは異次元でとらえなければだめだ。エホバの証人にて地位を得、自己満足で偽りを真理とし宣教師として会員に傲慢に語る。イエスは神、釈迦は仏陀。テキストはいらなかった。私もそうである。組織か、真理か。従属か、神の愛、義が大切か。

三国志「男は三日、見ぬ間に驚くほど成長している」君たちの成長。私の価値を認め、私の思想を流布しましょう。幸せの実現のため。私が、君らが望むエホバになるのではなく、君らが私の意を汲みエホバの使徒とならねばならぬ。エホバの証人は実は神に試される集合。機会は与えられた。イエスを神と

しない立場。クリスチャンではなくユダヤ教の一派とされるのだ。イスラム教ではイエスの教えはただの一預言者の意見とされてしまう。イエスを神と信じなさい。功徳、現証。私の書き物を見て「この聖人にはどこに行けば会えるのか」。ただ書面に顕れる私を信ずればよい。神と隣人を愛し、南無妙法蓮華経。

永遠の命を得るのである。家族を含め仲良くと思うから悩み苦しむ。争議から新興宗教へ、は多々ある。特段の会話は無くても繋がっているという実感があればいい。神の教えが介在しすりガラスとなる。日蓮の再来である私が言う。日蓮正宗の本尊の意味、引き継がれ私は明らかにする。偶像崇拝ではなく私の心中の南無妙法蓮華経が本尊となり題目は統一される。戒壇は我が身。

神を賛美し温かい人間になれ。さすれば正定衆の仲間に加えられる。律法、どうでもよい。命を重んじる信仰こそが幾度も言うが大切なのだ。聖書は霊感である。単なる読み物と扱うと何の功徳も生まれないだろう。テサロニケ人への第二の手紙、「どうかあなた方をお召しにふさわしい者にして、御力により善を慕う願いと信仰の働きとを全うさせてくださることを」。それは神であり主であるイエスキリストの恵みによって、その御名、即ち愛があがめられる。

人々の慈悲心や想いを欲望、煩悩であると切り捨てる宗教者は、神から同様に切り捨てられる。エホバの証人はどうであろうか。範疇のなか身もだえして

いないか。ひまつぶしにつきあうのは嫌。何様のつもりだ。一介の聖書の一文を覚えただけの若僧が。その高慢の鼻を折れ。エホバからの愛の言葉だ。心して聴け、童貞野郎。俺の本尊は偶像化したものとは違い、心の中にうち立てられる。けして崩れない南無妙法蓮華経だ。仏陀のサトリを仏種に感応させる。思いやり、愛の根源だ。不遜ではない。私は日蓮。真実より多くの人が憔悴せず選択する本尊が大切だ。君に私の本尊を明らかにし宣言しないと送信が不可能だった。自ら半信半疑。だが躊躇はしてはおれなかった。ただ墨で書いた血脈のものが正当とは言えない。拝せば偶像の香りもする。すべてをリセットし、私、日蓮の意を汲んだ本尊、南無妙法蓮華経が各位の心の中に顕現し皆を成仏へ導いていく。様々な吉兆を信じよ。君はどうだ。私は日蓮を自覚し広く仏の教えを流布するため心の本尊、南無妙法蓮華経を表す。人々は心底から帰依する。偽りない。日蓮正宗。日蓮本仏、代々伝わる血脈の本尊を信じなくては首の皮一枚で成仏できないという。私は日蓮として良心に基づく仏種に仏陀のサトリを働かせた本尊を人々に。深い意識で、すべてをつなぐのだ。本尊は込められた日蓮の想いが大切。ならば各位の心に掲げられる。むしろ心にこそ本尊は存在しなければ。それぞれの心に宿る良心に寄り添い阿頼耶識と言われる深層意識で集合される。大きな意識生命体である。これこそ真如、幸せの生

命力、南無妙法蓮華経はそこにある。びっくりか。前にわしより仏教には詳しいとほざいていたな、山口くん。この一連のメールの意義が解からなければ本当の愛、幸せは説けない。エホバもうなずいているよ。清さと自覚と神への願いは一致していないといけない。願いは想いと共にかなえられる。心を正しアガペーにてまい進せよ。雑念は捨て。エホバの意を汲めよ。私は聖霊の宮、つまり感情、情緒は自然に神よりもたらされる。イエスより気付きは与えられる。フリーセックス、来る世。想いとは、縛り、悪しき欲望とは違い、嫉妬、悪感情より解放されたものである。そして選ばれた人々は快楽からも放れ、自然と心で愛し合うことになる、基本的に永遠に結ばれた一人の人と。陰で誰かの涙があるとしたら悲しい。そして深い思いやりから博愛は生まれてくるのでは。優しい人たちの想いはそこに存在する。そこに神の享楽への強制があるわけではない。美しいものへの志向があるだけである。今日、天の啓示が下った。私にこの縁を生かし、懸けてみて下さい。君達の善き隣人、兄弟として。けして私に従え、帰依せよと言っているのではない。これが神、エホバの、今の素直な気持ちです。胎動の後、もたらされました。明日も生きるため頑張ってください。体制は末期です。楽園は訪れる。相応しいものが入る。神は居直らない。そして逃げだしたりもしない。君らは信義から外れている。不快だと

私を無視するのもいい。寛容は、エホバが一番望むものです。許しは果てしなく。私と君たちの不具合。私が和平のためと譲歩し、心ならずも変節したように、かりそめのピエロを演じ、謝罪すれば、ことは済むだろうか。関係性が成熟していないと嘲り、侮辱が生まれるだけである。イエスにも神にも、枕する、所はない。君たちは私を受け入れなくてはならない。神に首を吊らせてはいけない。奇跡につくものは偽信者。私と話した君たちは主を知っているはず。信じる者は報われる。善意と良心、それだけで生きていけないのがこの世間。生活のために悪を犯す。私のみが善。憐れみはある。君たちに対し本気で怒り侮辱したことは一度もない。すべて善きことへの方便。傷つき恨みになったのならエホバを許して下さい。この先は不透明です。負けず嫌いは若さの特質。だが、私の話をよく聞いて下さい。愚痴でも未練でもありません。

私に悪印象を抱く君らに問題があることを自覚して下さい。忌憚なくエホバの懸念を話している。終わりの日、真実の信仰ある人は歓喜に酔うだろう。山口くん、一連のこと、矢面に立ち、大変だったろう。優秀な君は親の厳しい躾を超え、イエスからの愛を学んでほしい。けして二―チェのいうルサンチマン（恨み）ではなく。夢のためである。眠ったかな。今日は本当にありがとう。

こと教えに関して話すと、時を忘れる。どうかな、一言でいいから返信くれますか。神の人の好さを解されて、懇願します。「イエス様は心の友達だからどんな時でもそっと祈ろう。どんなに大きな苦しみだってお祈りすれば安らかになる」。あるラジオ番組からだ。間違いはない。一言、イエスは神だからな。全世界で君の親友はまず彼である。世の破瓜には如何なる時でも責任がつく。女性は結婚まで処女は保ち続けなければならない。原則である。そして人は清き人格を手にする。未婚の女性達を愛するが故。今日、顔をお出しできますか。

来てやっている、そんな考えなら害その身に至る。キリストの福音を伝えるときはいつも喜びでなければ。そうでないから犠牲ととるのだ。ありがとう。来週ですね。また連絡ください。純粋は傷つかぬよう、大きな寛容が必要となります。いつの日か打ち融け合う時宜が来るのを楽しみにしています。永遠の命。君の夢、「歴史を学び制覇する」。忘れてはいませんよ。君はエホバの証人の中ではずば抜けて明るい。自信にあふれている。しかし、私とのかかわりの中、揺らぎがないとしたら見込みはない。新しい視点、論点、認めたところにエホバはいる。

私は虫を殺した。良寛さんはシラミを日向ぼっこさせ、また懐へ戻したという。仏陀はなにをしても殺生の因縁はなかった。明るく素直に温かく。何かを

愛する。主観的でいい。色即是空、そして空即是色。ただ愛を忘れず。イエスには眠るところがない。つまりこの世界では義は無く善意と良心だけでは生きていけないこと。それを自覚する。祈り、信仰がありアガペーに生きる。

この世、フリーセックスはよくない。魔が入る。真宗、情欲、悪の臭いの肯定である。やはり本物の恋で一人と愛し合う。それが南無妙法蓮華経。神の国、ただ二人は暖かい空間で愛し合う。後それは昇華しアガペーへ。幸せは正規の道をもって見える。本能とは違い、情緒、理性による愛は存在する。心の契約、裏切り、当然、憤る。肉欲に見境なき男女は地獄でつけを払わせられるのだ。歓びで男子の筆おろしを為す、中年の女性工員がいた。優しい。でもパートナーを泣かすのはいけないね。いやもうそこらのレベルではないのかも。奉仕か。来る世、フリーセックスを望むものは極めて博愛的である。　エホバの意を汲んだかい。「遅くまでごくろうさん」「馬鹿野郎、人先早く来い。」

私はどちらでもよい。怒りも焦りもない。ただ君は信義に外れている。悲しい。神のために死ぬ、まず神のために生きてほしい。つまり愛のために。いついかなる時でもそれを忘れず、思いやりを傾け生きよ。私、エホバを信じるなら。願って。ヨハネによる福音書。第6章。私の血を飲み、肉を食べなければならない。そんなひどい話、受け入れない。私とあなた方の現状です。美辞麗

句は不必要。パウロは言う。闘争心からキリストをのべるものがいる。私かもしれない。一方、善意からのべるものも。あなた方かもしれない。いずれにせよ正しいのは私の方である。快楽を求めるとき正しいはつまらないという。

信仰はそれを楽しく。幸せにする秘訣である。ところが大概にして若者には解からない。そんな中、君たちは環境的に恵まれていると言える。礼儀は大切だ。だけど生活の気づかいに振り回されるのはよくない。イエスの血や肉を食うという、酷い言葉。つまり「馬鹿野郎、殺す」、という言葉も時と場合によれば、血、肉に入るのだ。汚いに、真実があることも。

もう見ているかもしれない。サイト「聖書に導かれて南無妙法蓮華経」　梶原義人で検索。少しでもたくさんのものに触れて下さいね。幸せは真実そこにある。（コリント人への第一の手紙）１３、４、「愛は寛容であり、愛は情け深い。また妬むこともしない。愛は高ぶらない。誇らない」。耳が痛くないですかな。男女間、嫉妬はするな。自らにある淫猥な妄想が去れば消滅する。そして神の御使いという名誉が与えられる。妬みはイエスが死に至った、重大原因である。世では不自由を感じながら生きている者が沢山いる。そういう人は全てに不自由を感じるものだ。ただサタンに縛られている事を自覚するものは幸福なのである。

サタンの存在を意識しないと不幸の報復は人間にされ、果ては殺し合いになる。サタンを憎んで人を憎まず。イエスを信じ、人を許そう。業の自覚を促して。イエスが「鳥には巣があり狐には穴がある、だが私には枕する所は無い」と言う。イエスの十字架の死。復活により愛を抱くものには生活の心配はなくなった。価値の逆転がなされたのだ。私は神の愛に生きたい。愛すべきものを愛すだけです。それは健気に日々生活するすべての老若男女です。神は私の様なものなのです。聖女に「熱いの、いかが」神の言葉です。嫉妬がない。独占欲もなくなり、ただ、ひとつしたい。この感覚忘れていた。回帰だがそれがいい。でも思いやりと愛が互いに溢れていなければ。明るく素直に温かく。神の言葉。なぜ君たちは表層しか見ない。物事を深く考察できない。暗喩に対し想像力を働かせる。基底には真実の愛が存在しなければ。解かるかな。宗教団体はダメ人間の集まりである。自己決定が出来ない。私は神の子の自覚ある人だけ導く。無理、無駄な勧誘はしない。強引な詐欺集団は神の手により地獄へ。

イエスは追っ手の耳を剣で削いだペテロを止める。暴力はときと場合だ。何が正当かは現在も問われている。イエスは暴言を吐き、暴力も容認した。あえて偽善者に立ち向かうため。突き詰めたら倫理から抜けよ。戒律などいらぬ。

神を信じ愛し、隣人を愛する。自然に友情が満ちるとき神の国の住人となり永遠の命を得る。何も要らない。私には信義に外れる君たちを救う義理はない。

縁を絶てと聖書が促す。私には懐柔、緊張させる作為的なものは無い。地獄への最後通告か。これ以上、罪無きよう。しかし君たちの中から報われるものが出ることを聖書は否定していない。人生の辛さ、本質が判った人は、謙虚にエホバの到来を待っている。純真。審判に臨む、一番大事なことです。私の血を、飲み肉を食う。その意味が解からなければ固定観念、既定路線からは離れられない。イエスの言語、理解できぬものは真理から放れており神の国には入れない。キリストの血肉とは。まず十字架の死が浮かぶ。また感じるタブーへの挑戦。偽善者の虚飾に対し、ある意味、批判というヘイト。神は是として考察せよという。私の言動が受けられないなら神の子ではなく、冷淡な情けのない人間だ。聖書を読み、また説くときは見解を押し付けず、視野を広げ、良心で深く掘り下げてから。なぜか遺言にしたいような気がした。

本物の宗教団体なら人々の幸せになるための通過点でなければならない。感謝されずともただの現象と扱われなければならない。信者は大きな財産を授かる。法華経と聖書は類似と言うより同じ世界にある。イエスも久遠の釈迦如来もなしたことは書ききれないと。三世間。神の摂理、仏陀の法の譬えである。

これに対する反発は、頑なな意思から。寛容な融和に向かえ。たぶんあなた方は宅に訪れないと予測します。が、聖書は声かけすることを許可しました。真理を求める気があるなら待っています。血と肉により私の声を聞け。良い学校を出、収入、安全は団体に保障され、替わりに押し付けられた嫁を貰う。嫉妬と羨望が互いを取り囲む。欲望は、ゴルフ、家、車などに向かい、他人と同調することを旨、とする。恥ずかしい病は避け、楽な死に方を目指す。年金、退職金をもらっても老後資金の為と定期預金の番人となる。組織人の意識である。死ぬまで働こうとする。ワークホリック。なぜ組織からの解放を喜ばない。見栄で偏見を回避するためか。情けないぜ。高い志を持てよ。以上の人は神の晩餐に招かれても来るはずがない。また横柄、傲慢な人間はそれだけでも罪の代償を払わされる。周りを思いやっていないからだ。

後方から人々を支える。金への執着から抜け、後輩のために財布のひもを緩める。幸せ。損に見えるが喜びへ。独りで生きながらえて、野垂れ死にするのを、ひたすら念じる。これこそが真に人の行く道。仏の道である。祈れ、弱きものたちよ。光に包まれ安息の地へと歩むのだ。モラハラと言われたくない、妻の行動を舌打ちしながら陰から見ている亭主。博愛への旅立ちには、大きな温度差が。真実の博愛の流布こそが、神の国の実現につながる。潔癖な清らか

な愛とは、独占欲、悪魔の受け持ちだと聖書は教える。邪悪の裏返しだからである。明るい愛のためフリーセックスに絡む、罪悪感は捨てねばならぬ。素直に温かく猜疑心、嫉妬、疑惑などの悪感情を捨て皆が聖霊の宮として自然に友情で結び付く。

人は死なないから、もう生まれない。縛った病気も姿を消す。もし本当の清らかな愛があるとすれば、思いやりを追求した果てに、聖霊の宮となり、すべてのものの幸せ、安泰を願う存在となること。　明るく歩もう。聖なると言った瞬間、邪悪が誕生するから。作為からの善意の罪を悪と規定してはいけない。正義が寛容から外れる。真実の愛は確実にある。イエスを信仰し聖霊の宮を目指せ。サタンは悪意にある。聖書は霊感として存在するから価値がある。聖邪の判断は誰もなしてはいけない。神が自証する。聖と邪は表裏。つまり良い悪いと白黒を聖書で判断してはいけない。愛があるかどうかだけが判断基準となる。それは神にしかできない。それを踏まえたうえで、神が神の子と認めたものが良心によって解釈することはできるかも。

だがいつも話すように聖書は読物ではなく神が実務的に活用する聖なる携帯品とも言える。物事の吉凶を占うための指針を示すものである。善は神と聖書との対話にある。神の前では誰もが罪人である。おもねる人々にとって、神は

上から目線の神々しい、裁く姿だろう。しかし本当の神は身を切られるように弱者のため、悩み痛みに苛まれている。頭を抱え、かきむしり、ときには号泣している。例えば悪魔のいけにえ、幼児、児童虐待。犠牲者の女の子の心情を思いやって。神は優しく肩を抱きしめたかったに違いない。イエスは神として臨み、マリアは母親の立場から見る。仲は悪かったろう。親を謗るな。父母を捨てろ。要は物事を一元的に見るなと言うこと。血と肉の譬えがここにも生きてくる。何を着るか、食べようかを考えたとき魂の死は始まる。

老後の金をためる。キリがない。神の摂理に身をゆだねるとき幸せになっている。神の国の到来。「年齢をとり、残りの日々楽に生きて行きたい」。ただ死を待つだけか。私は年齢をとるのに精神的苦痛は感じない。明日へ向かって想いをもって歩んでゆく。夢の実現と利他のため。我、日蓮は八幡大菩薩、天照大神。諸天と共に善神に守られている。義人はまた観世音菩薩、地蔵菩薩にも守られている。有難い。本当に感謝。報われないのは、すべてはエホバにたてつき、イエスの愛を信じない者たちの自己責任である。来る世がやってくる。もうすぐだ。神を恨むのは筋違いだ。

ご来訪されますか。お答えいただけたら嬉しいです。楽しい時間を過ごしましょう。憐れな。私は侮辱、嘲り、行き止まり、窮乏を喜んで引き受けよう。

弱さを誇ろう。なぜ私の話を聞かない。イエスの教えは学問ではない。無知に神をないがしろにするのはもうやめよ。自己顕示、自己承認、人が生まれ来る限りはそれを求めるのは恥ではない。むしろ社会貢献になれば喝采される。

神は優しく落ちゆくものを「信仰せよ」と抱きとめる。私が製本し広く頒布したいと思うのは、働くことにより自己実現を図り社会貢献に向かうのと一緒。醜い煩悩とは違う。すべては利他のため。サタンは、悪しき人間に地獄を見せる。神に謙虚で従順な人々には関係ない。あえて対決姿勢をとった私は間違っていた。信仰によりサタンにつけ入らせる隙をつくらず、心を陥落されるな。それは戒律の順守より、愛に重点を置くことである。

イエスは愛という信仰で形骸化した戒から人々を解放しようとした。おおらか。そしてイスラムは再び神の奴隷であることを是とし、善とした。

私は悪意からあなた方を謗ったことは一度もない。独りよがりな礼拝、わざとらしい謙遜より離れ、不品行、情欲、貪欲はもはや捨てなくてはならない。聖母マリアは仕事のため「汚い前かけ」をし、日々生活と闘い、家族の暮らしを支えた無学で立派な女。イエスは神として母親を捨てろという大悪党。十字架で叫ぶ「あなたの息子はあの男」。イエスの愛、複雑な心持ちが痛い。

私の想いとイエスの教え、齟齬があるように思うだろう。しかしすべては預言者に従うとき真実となる。一元的に捉えず、愛を信じ時宜を計る。君達は嫌悪の前に考察を。あの人は良い人だ。いや群衆を惑わしている。私は神の言葉を語っている。私、すなわち神から出たものなら真実かどうか一目瞭然だろう。君はどうだろうか。ピリピ人への手紙第二章五節から七節。神であるキリストイエスの人間としてのあり方が記されている。八節イエスは死ぬまで人として従順であった。私も同様である。「十月頃、本を刊行、店頭にならべる。自らの自由と平和が失われるのを危惧し躊躇していましたが、聖霊が後押しをします。腹を決め布教に対し遠慮せず積極にと。信心に対し呼び水になればと思います」。しかしやはり虚栄である。最後、聖書は刊行の取りやめを善とした。

私は従う。来る世、真のエホバの証人が選別される。君たちの中のパリサイ人、偽善者が抜き去られ、純然とした信者が報われる。私もその中のひとりだと聖書が示してくる。ヨハネ福音書３章３６節「御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は命に預かることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。いつまでも去らないマリアに十字架のイエスは自分を神として認めない姿を見、群衆の代表の様で、怒りと歯がゆさを感じた。最後、愛はエゴと違うと叫んだ。イエスは「神の愛の前ではくだらぬこと」マリアの

母親としての情愛を切り捨てたのだろうか。誰よりも優しい彼は最後までマリアの愛は心に留めていただろう。「妬みや闘争心からであっても、キリストを見栄、党派心に関わらず伝えることは認められます」。パウロは大喜びをしている。キリストの愛がはっきり見える。ただ教えが広がることが大事。

聖書と法華経の世界観。仏陀もイエスも、なしたことは書ききれない。意味は久遠の本仏、神の摂理、同じだ。悪感情でキリストをのべても、失格によりかえって愛の証明を為す。聖書は王家の筋にイエスが生まれた経緯をマタイの福音書で表している。つまり因縁を大いに認めている。法華経と同等である。

それを思えないのは頭が固いだけ。マリアはやはり悪であった。七つの悪霊を引き連れる。宿した胎。乳房。「いや神の言葉を守るものが祝福される」。イエスが十字架についてもその真意はマリアには解からなかった。悪とは神を裏切ったことに尽きる。君は私に逆らうが上役にはどうだい。君たちは完全に的外れ。害その身に至る。神に従順それが善であり愛の証人である。山口くん、やはり人は愛がないと幸せにはなれない。富は無用だ。ただ神を愛し隣人を愛する。そして艱難にたえよ。美しい、思いやる心を忘れるな。真実。イエスは限りなく許せという。だがイエスは寛容だろうか。彼は責める、パリサイ派、サドカイ派、宮での商売人、荒れる波まで、あらゆる偽善、逆らうものたち

を。山口くんありがとう。一冊本が出来そうだ。タイトルは「エホバとして」出来あがったら会館の郵便受けに入れとくよ。俺には私怨のないことを伝えておく。ただ聖書は私の話を理解するのはエホバの証人しかいないという。

何か打開策はないものか。私はこのままでもと思うが、聖書には一家言あるみたいだ。自分が正しいと思う道を行く。情けないと感じるときがる。だが良心を痛めてはいけない。情けないと思う自分がいるだけだから。まずは、一切は空。色即是空、空即是色。真実は南無妙法蓮華経という絶対愛にある。放蕩息子の譬え、フリーセックス、極限まで思索しないと翻って真理へは到達しない。聖書から放れ自ら愛を考察せよ。父の想いが安らぎとともに現れる。つまり愛しき慈愛に満ちてひとりの人と楽しい空間をつくり幸せになる。またそこから博愛に移りフリーセックスを生きる。これは神の強制ではない。私が言いたいのは嫉妬などの悪感情。妊娠、病気が無くなる、来る世では神による戒、規制はもはやないということだ。つまり各々が自由にその志向によって生きるのです。神の国への条件は愛と思いやりを持つ柔和な人です。それには祈ることだけです。

日蓮正宗を信じ、破折、折伏という布教に燃える貫井へ。

聖書が示します。久遠元初の自受用身、暖かい気、聖書の神が、イエス、日蓮

へと示現し、愛を訴えた。これが十字架、復活、南無妙法蓮華経です。すべては人々の苦しみを抜くためです。宇宙の法である、久遠実成の釈迦如来、神の摂理、一体。まだこの実相が解からぬか。頭の固い奴だ。私を妄想癖と、ならば日蓮もそうか。理解力は神仏である日蓮よりもたらされる。精進されよ。君に私と日蓮が結び付かないのは結びつける意思がないだけだ。愛と思いやりを受け取るつもりがない可能性も。新しい顕正会批判の資料は必ず渡す。これからは彼の家の郵便受けにいれたらどうだ。悪いが俺には興味がない。睡眠薬を服用している。真夜中、早朝のメールは控えてくれ。悪いが、悪影響がある。実際に。俺は神だ。

この世は醜悪で頑迷、不浄なものが多いため、薬がなければ正常な肉体は確保できない。因縁から真由子さんの愛に救われた。解かるかな。神の深慮。すべては摂理。因縁とは齟齬しない。貫井、俺のサイトがある。必ず全部読んでくれ。永遠の命に向け。約束は必ず全部、果たすから。それからだ。神は全知全能。腐るものでもなし。渡す頃合いを見計らっている。瑣末なことに心煩わさず大局を見よ。大事なのは意地ではない。小競り合いは不毛な自己執着である。「読点をつけよ」。コラムのようにうまく字数を合わす為、付けないこともある。

指摘ありがとう。取りあえず、おおらかに行こう。南無妙法蓮華経だ。明るく、善に向け温かく。それでいい。雄さんが、俺に対する不敬から持病の糖尿が悪化

したおそれあり。携帯が繋がらない。君から一報入れてほしい。安否確認、頼む。忙しいとこ、お世話かけます。貫井、頼むよ。連絡とってやってくれ。彼が心配なのだ。彼が酒を私に奢れば済む話。布施だ。まあ君にはどうでもいいことか。

南無妙法蓮華経を打て、そしたら返信があるということか。元気なら。正解だ。南無妙法蓮華経を無視できないからな。ありがとう。流石だ。またよろしく。

彼は元気でした。良きアドバイスありがとう。だが彼は信心がズレすぎる。頭は固いのに女には節操がない。君みたいに深くはない。　まず盲信は俺には出来ない。主体性という金剛がある。自律と信仰大事です。ネットで日蓮正宗の豊田さんと顕正会の対決を見た。不毛な論争は好きではない。豊田さんが独善的なのは当然だが少しご都合主義。けど御書をはじめ文献に精通し駆使する、たいしたものだ。

わしとはスタンスが違うけど。文書ってそんなに絶対的なものかなあ。不立文字、拈華微笑ということもある。実は本住坊と喧嘩をした。性格上、脅迫は許せないので。奴の身が心配だ。不敬、侮辱に対し宗門に罰はくる。南無妙法蓮華経。俺を否定する本住坊とは縁を切れ。貫井、君には本当に感謝している。金に対する執着が取れた、すべて君のお陰だ。ありがとう。俺は日蓮として新たなる本尊をつくる。俺の本尊は偶像化したものとは違い、心の中にうち立てる。

けして崩れない南無妙法蓮華経だ。仏陀のサトリを仏種に感応させる。思いやり、愛の根源だ。血脈から外れた本尊は悪鬼がすむという。だが日蓮正宗とは違う、本門流八品派の家系にある俺。本住坊には先程の見解を伝えた。恫喝してきた。怒鳴り返しテレを切った。私の思想は日蓮本仏論が出始めた頃と同じ様相である。不遜ではなく真実、多くの人が憔悴せず選択する本尊が大切だ。

君に「私の本尊」の文字を入れないと送信が不可能だった。遠慮しているわけにはいかないみたいだ。私、日蓮の意を汲んだ本尊、南無妙法蓮華経を各自の心中に顕現させ、成仏へと導く。様々な不思議を信じよ。君はどうだ。私は日蓮を自覚し、広く仏の教えを流布するため、心の本尊、南無妙法蓮華経を表す。私は良心に基づく仏種に仏陀のサトリを働かせた本尊を人々に。深い意識ですべてをつなぐのだ。わざわざ足を運んでくれてかたじけない。カレーハウスにいた。

君の教えは百も承知だ。俺には組織にとらわれない自由な境界がある。貫井は、(ブラームスは真の自由は制約の中にある)と。人間の中には自律できないものも確かにいるだろう。内村鑑三は「真実は独立を求め、虚偽は依頼で生きる」と言っている。今以上の制約があってたまるか。自由がないと感じるのは生老病死があるからだ。自由という成仏は、日蓮を信じる。この縁を活かし俺に懸けてみるということだ。必ず善き伴侶、不老不死が訪れる。あきらめるな。つねちゃん

素直になれ。俺に従えとか帰依しろとか言ってはいない。いつまでも善き友人、兄弟でいてくれ。俺を信じて。そうでないと少しさみしいぜ。

聖書と法華経。両所を比較したとき、法、摂理から示現した、釈尊（仏陀）、イエスがいる。勿論、日蓮はイエスであり仏である。政治、経済、人口、世間は欲望を鼓舞するから成り立つ一面がある。しかし金銭欲、名誉欲、自己顕示欲、食欲、性欲。奔放になれば危険性大、煩悩の炎、守銭奴が生まれ、戦争へと。南無妙法蓮華経、心のヘドロをとった後の愛の注入が必要。欲望に制御をかけるのが宗教である。また幸せのためには金がいる。経済を回さねば。イノベーションのたび、楽になるはずの生活は複雑になり労働時間が延び、精神疾患の温床、自殺の原因となる。南無妙法蓮華経を文字ととらえれば御書、文書尊重も解かる。だが南無妙法蓮華経は仏陀の教えを仏性に刻む仏法の魂である。学問、言葉にこだわってはいけない。思いやりです。

南無妙法蓮華経は南無妙法蓮華経だということです。「全知全能の神がなぜ自殺できない。だから神を信じない」と言ったね。神はトータルでパーフェクトなのだ。自殺は善知善能の神にはナンセンスだ。殺されかけても、自殺しない。日蓮もそうであった。貫井、死ぬなよ。死んだら俺が泣いてやるけどな。誰かを論破したところで得になることはない。相手は屈辱感と怒りを持つだけ。

人に勝つことを望んでいる限りサトリは遠い。我々はそこに南無妙法蓮華経。釈尊は王子に生まれたプライドとも戦わなければいけなかったのでは。裸で四つん這いになり獣のようにうろつくことも。その修行は虚栄心の克服にあったのではないかと思う。論破が折伏であると。それでは顕正会の彼の方が一枚上手だ。へ理屈のこね合い。論議のための論議、確かに潔く、正しきに負けを認める姿勢は大切だ。

世界が混乱している原因は感情にあるからだ。奉安堂の耐震性にしろ、戒壇の本尊までもが私には枝葉末節、本末転倒に思えてくる。争えば争うほど南無妙法蓮華経から放れて行く。日蓮を悪しく、敬うか。南無妙法蓮華経は仏陀のサトリを仏種に結ぶ仏法にある。すなわち空になった後に愛を注入する。本尊を深層意識の最も奥まったところ阿頼耶識に植え込み、皆、繋がる。唱題が響き渡る。大音声。私の南無妙法蓮華経である。それでいい。けして崩れない本尊はユングのいう集合的無意識、つまり阿頼耶識の根源、真如に集められ、それを皆が共有する。南無妙法蓮華経、すべてを包み込み浸透する。大音声。日蓮の再来である俺が神通を明らかにする。常楽我浄、いつも楽しく美しい。この境地が仏である。

日蓮は取り囲む念仏に対しあえて傲慢を演じた。仏法は殺伐としない温かなものだ。日蓮の戦闘的ではなく、書状から、その暖かさ、情理そろった傑物の姿が

見えてくる。南無妙法蓮華経が万国に広がれば功徳として不老不死は現実に生まれる。エホバ、日蓮同体だ。求心力の為、排他性はいずれも必要だった。久遠元初の気、神、仏である日蓮。日蓮系、エホバの証人、ドグマ（独善的教理）にて頭上に頂き、排他的で求心力を高めるもの。彼らの神輿が同じものであったことを私は告げるのである。

親しき役人(もうひとりと三人で飲んだ)優しい君のことだから、つぶれかけのばあさんのスナックを利用しているのだな。部下の満足度はどうだ。ほっとさせやがって。退院からやっとつながった、トシオの身内は「お前、働いとらんねけ、付き合いせんじゃ」と冷酷に裏切った。尋ねる、私の存在は君の査定に障るかな。昔から一方通行だった。君は沢山の恨み、不満を腹に、私に合わせていた。私は寛容な君が、すべての品行を清濁併せのんでいると思い、疑念も浮かばなかった。電話一本すらない。

消極的より嫌っているとしか思えない。振り返ればかつての私の所業からは当然だろう。そして今、君へのアドバイスだがいつも素でいることが大事だ。仕事に集中でき人間関係に無頓着になる。七人の侍の菊千代を忘れるな。火のついた水車小屋に赤ん坊を救うために飛び出す。刺され、抱き歩いた母親が彼

に託す。「こいつは俺だ」グッと来たな。　俺は君に赦しを望んでいるのだろう。

今の俺にあるのは自由な時間だ。だがけして孤独ではない。現在、君の迷惑にならねば善い。君の存在本当に大きかった。ありがとう君の家は近在だが私にとってはとても遠い。私の意図を汲もうとするなら、利害からは判明しないだろう。ありきたりではない。いつまでも俺にとっては無二の親友だ。社会的地位を求める。君にも存在する。責任という美名に縛られる高慢な心。本当の自尊心は信仰する所にしか気づかれない。愛と正義、二つ星が光る。危険性とダイナミック、君は私と距離をとる。私はこの世の本質を見定める。国民栄誉賞などいらない。眼前の友を愛する。君の思想は周りに同調するだけなのか。

わしを侮辱すること慎むべし。害その身に至る。枝を断つ決心をした。君とは前にも後にも赤の他人だった。愛し合う機会は失せた。　ご多忙ななかありがとう。了解しました。楽しみです。私は酒を飲まないので。好ければ君と待ち合わせいたし同乗したいです。ご都合ご連絡ください。私の様な見苦しき風体の男が親しき仲であっては沽券にかかわるか。歓迎されないなら誘わずとも好い。君の思い通りにしたらいい。それでいい。私は己の卑屈さを聖書に指摘された。

私は宗教家ではなく神である。宴に参加したく、君との待ち合わせ場所、時刻、連絡ください。私は特に注文の儀は無く。聖書の応え、迷惑になっているようだ。やはり住む世界が違う。君は自分の生活を守るがいい。言葉足らずは君の冷たさか。サタンの配下で無きことを祈ります。今、休憩に入りました。

了解しました。楽しみにしています。多忙ななかありがとう。いささか伺うが、駐車場の会計に懸念がある。君のことだから卒は無いと思うが、急な坂、らせんには抵抗があります。回避したく、希望する。場所は予想がついた。会計は出口で現金払いですか。今はどこも別場所での清算だから。駅前はなれぬところ。厄介おかけします。よろしく。何せ、駐車場の件は着いてからですむこと。効率の悪い話で申し訳なかったが友情とはそんなもの。割り切れない。それでいい。お忘れなく、大事なこと。提案です、スナックは今回遠慮させてもらって、駅前カラオケにいきませんか。流れですが会話に違和感があるより盛り上がりを選択したい。意向の一致があれば。新聞しか読めない身になった。金ではないぞ。一般書の感情表現は妄想に思えるから。事件、事案の客観しか受け付けない。君は神の子かも、人格者になったのが解かる。

公務員からみた社会、方針、認識、許される範囲で教わりたかったよ。あいつは野心と欲望と不安と責任と焦りで五重苦なっている。煩悩を何とかせね

ば、幸せにはなれない。タクシー運転手さんへの配慮などを疎かにして。横柄で傲慢な態度、何様の気でいる。今日最後のメールにする。友の幸せ、歓びを友と笑い、憂い悲しみには共に泣く。素直に温かく。永遠の命を得、神の国で心配なく暮らす。きっとな。無二の親友は過去の反省をし、君しかいない。

君の優しい心根が沁みてくる。君の母親の命を奪った世間。俺は対する。意味が解かる人間は神の国へ。杞憂であればよい。大阪吹田市の事件はサタンの仕業、君の友情はどうだい。試されている。あまり私を邪険にすると障害者の差別を禁止した法律への抵触につながる。自己防衛ばかり考えていてはにっちもさっちもいかなくなるぞ。君は大丈夫だ。堂々と暮らされよ。朝乃山、八村、競技批判を繰りだす私に、対抗から牽制、嫌がらせを仕掛けるサタン。仕組まれた世間。神の愛が絶対です。もう確かに俺を信じているな。矢面に立つ君。悪魔の気配は幾度となく感じただろう。上昇志向から逸脱した幸福、認識しているだろう。錯覚した者は相手にするな。君の平和を祈っている。

君たちしかいない。永遠の命を生きよう。あいつの横柄、傲慢な態度、奴の人の好さだ。君も高慢、嫉妬なぞに負けず善良なる自分を打ち出せ。そしてかみさんに感謝。あいつのスナックでの暴言。他の客と暴力沙汰になってもおかしくない。君はただ保身に走っているわけじゃないな。職権の全責任を担う。

俺が何か言えた義理じゃない。すまぬ。人は上からものを語りたいのが大勢だ。でも複眼をもたねば意見は通らない。君の受容的献身は解かる者には判る。失言に気をつけ行政長官を見事に。ご自愛を。忙しいなかわるい。

今考えると私の演劇は若さゆえの戯れ事だが、宗教は積み上げた末の空論ではない。聖なるものは目に見えない世界に存在する。君なら分かるだろう。込み入った話などするつもりはない。ただ声が聞きたかった。選挙管理で忙しいだろう。悪かった。手が空いたときにメール下さい。ご随意で結構ですからね。心配するな。心優しきものは、必ずサタンを見る。君よ。君が救われる道はひとつしかない。変わらぬ友と信じ。私は軽蔑される輩ではない。誇らしく。浄土真宗にとらわれず南無妙法蓮華経を唱えて下さい。心に本尊を思い描いて。もともと戒律順守は関係ないね。いつも楽しく、美しく幸せになる。即、成仏するため。選挙の騒々しさは一段落かい。ご苦労さん。私に繋がり、よき葡萄であってくれ。

私が君を愛したように互いは愛し合ってほしい。緑内障で片目の視力を失った君だが、そこから優しさを知り心の盲人から救われた。俺が見た世界。君が見たかは判らない。自殺者２０２０年１月発表１９年度２００００人の現実。

砂漠、地獄に生きる人々。君も闘っているな。責任を無視できず。俺は君に迷惑はかけない。心配いらない。

俺はエールを送っているだけだ。危険性は全くない。ただ案じる。お前の立場、相当のストレスがあろう。あまり懸命にやらぬ方が。弦を緩め。あいつには俺が虫の知らせでテレした。こんな時こそ香典代わりに好きなだけ飲ませてやりたい。母親は長患いの果ての死だったから。いつものように君の遠慮は薄情に見える。奴は語りたいのだ。

少し書いてみた。

幸せの快感は、神の領域である。嫉妬、妬み、独占欲から放れた柔和な優しい人らは規制がなく、想いに身を任せることになる。抱擁が平和の内に生まれるのだ。すべては自然のままに。聖霊の宮は、すべからく明るく素直で暖かい関係を結ぶことになる。この高次な愛を理解するものは何人いるだろうか。現時点で、互いの愛を確かめるにはそれ相応の覚悟が必要になる。パートナーに対する裏切りではない、その想い、思想、寛容な愛は選ばれし者にしか理解できない。私の欲望は利己的な情欲からではなく、一生懸命生活している女性を慈しむためです。私を信じねば勃起はしません。皆さま、美しき心、望みま

す。硬く、熱く。現在、過渡期だと思います。自分の女性に対する意識の変化。神としてアガペーに生きるのが筋。優しく強い男女には理解できる。

神は誰よりもそうした賢い人達を深い眼で見つめている。皆に神の国の住人になってほしい。愛と思いやりを抱いて下さい。それがすべてです。皆、アガペーに生きてほしい。人を傷つけず、真由子さんにとって私はあまたの中のひとりだったのだろうか。私の存在は利用者、有象無象のなかにあるのか。もしかしたらこれが私の求めたものであって、これでいいのかもしれない。真由子先生は「すべての患者さんに医師としての想いはある」と吐露。これで二人の関係は、精一杯である。そしてここに高次な博愛が成り立つ。皆が博愛（アガペー）の意識を持つ。自由と平和が生まれる。私は肉欲などと切り捨てたいが、かなり前に経験したオルガスムスの快感を求め、その対象は自然と、或る聖なる女性に向けられる。聖句「キリストの肢体を遊女にしてはいけない。

主とひとつとなるとき霊もひとつとなる」。つまり私の想いに従順になれということ。幸いはそこにある。当惑、困惑されたかも。しかしあなたの寛容な大きな器で受けて下さい。私の甘えにも見える、想いです。

あなたは私が勃起する唯一の人。献身的で聖なる存在だ。卑猥な発言は貶めにはならずその逆をいきます。神の夢を実現させることがキリストの花嫁の務

めである。あなたの息災を祈っている男が独り存在する。とりあえず忘れずに。孤独な時には想うから。僕を念じて下さい。たとえ不義とされても。私は真由子さんへの失恋から操縦不能、空中分解。「私の発信した卑猥で非常識なメールに不快感を持たれたすべての女性にお詫び申し上げます。ごめんなさい。また善き縁に。猛省し、今後無きよう努めます。暑い夏、熱い日が続きます。ご自愛ください。皆様のご多幸祈ります」。真由子さんへの失恋、これが本道だったのではないか。求婚したのは勢いから、断られた反動で「転院します」と返してしまった。彼女は「来るなとは言ってない。今までと同様の診察が続くだけである」と。「今の状態に変化は訪れない。しかし患者に対する医師としての想いは皆に持っている」。私は特別な感情が欲しかったが。肉欲ではなく、ただ繋がっていたかったのならこれまでと変わらない関係が一番いいのでは。つまらぬ恪気もない。真由子さんに私心から遠慮していた。これからはもっと自由に女性とも接することが出来る訳だ。それでいい。転院はやめよう。これまで以上に清く正しく美しい関係を築いて行こう。明るく素直に温かくで。僕は知的障害のある子たちから人に勝つという価値観から離れ、ただ優しくありたい、を学びました。

ある人は「他人に勝とう、よく見られよう」、向上心に繋がるという。だが見栄だけが大きく立ちはだかるのだ。誰かの作った枠組みの中で勝負にこだわる。刺激があり幸せを感じるという。幕末、明治期「いくさほど面白きものはない」と放言した川路利良がいた。女、子供に塗炭の苦しみを味あわせる、男の面子とは如何なるものなのだろうか。見栄、誇示、鍛錬。糞食らえ、そこを追い続ける限り真の幸福は遠く離れて行く。永遠の安らぎを求め愛に生きたい。そして真由子さんは「辛いんでしょう」と繰り返し愛を確かめる。

皆、神の御使いとなり自由に暮らす。私は博愛を美しく打ち出そう。それが平和のシンボルであると信じるから。パートナーとの楽しい空間。そこにある愛が大きなものに昇華して行くよう私は祈りたい。人は縛られる夫婦であっては幸せになれない。モラルハラスメントを蹴散らし、この世間、与えられた運命に感謝しつつ、自然体で暮らそう。それでいいのさ。学歴、富、容姿、他人に評価されるものは結局、どうでもいい。戦うのを止めたとき、優しさが広がり幸せは見つかる。燃えるような恋の果てに結ばれた人たちは、その執着に気づくだろうか。アクシデントから恋をあきらめざるを得なかった人はアガペー(博愛)を知ることになる。もう女性を振ることは私にはない。(残念だったな。ここまで暖かいパートナーに出逢えなかったか。自己責任は厳しいか。取りあ

えず勇気を持って素直に生きることが大切だよ。この世の価値観に生きていないかい。「量るものはその秤で量られる」君の求めるものが人生を決めるのだよ。静かに傍らを見よう。ほら花が咲いている。名前は解からないが長持ちする菊の種類だ。それを柔らかく摘んでみよう。きっと幸せの香りがするから。平和な神の国、暖かな永遠の命を包摂するものはすべからく美しい。見た目からも伝わる本当の清らかさ、真実つまり愛が大事だと告げる)。

真由子さん、あなたへの愛はアガペーに昇華しすべてとフラットになりました。果たして正解か？彼女は神の愛を試したか。それは許されない。

唐突だがヨセフションペーターが言う。資本主義は行きつく先、寡占により社会主義を誕生させると。しかし世は独禁法を含め競争を仕向け、中小を苦しめるばかりだ。アメリカの貧民を想うとき中国の体制がなぜか俄然、説得力を持ってくる。安定、公務員に憧れる。解からないでもないな。でもけして愛を失うな。

義人（エホバ）